

競技注意事項

本大会は、2025 年（公財）日本陸上競技連盟競技規則ならびに本大会要項および申し合わせ事項によって行う。

1. 競技場使用について

- (1) ウォームアップ場は、補助競技場を原則とする。砲丸投の練習については、補助競技場内トラック外側の砲丸投ピットのみとする。
- (2) 補助競技場では、競技役員の指示に従い、ミニハードルやメディシンボール、ラダー等、補助競技場備え付けの用具以外は使用禁止とする。ただし、砲丸については、各団体で準備をすること。
- (3) 補助競技場のレーンの使用については、以下の通りとする。
 - ① 1～2レーンは、周回練習のみとする。（ペースの遅いジョグや集団走はしない）
 - ② 3～6レーンは、短距離練習のみとする。
 - ③ ブロックを使用してのスタート練習は、多目的広場側直走路5～11レーンのみとする。
 - ④ 多目的広場側直走路7・8レーンは女子100mH、10・11レーンは男子110mHとする。
 - ⑤ リレー練習は、周囲の安全に十分留意して、用器具倉庫前第2コーナー付近で行うこと。第4コーナー付近でのリレー練習は禁止とする。
- (4) 雨天練習場の使用については、以下の点に注意すること。
 - ① 入場は、第2ゲート側の入口より入場することができる。第3ゲートからの出入りは禁止とする。
 - ② シート等を敷いて独占的な使用をすることは絶対にしない。
 - ③ ウォーキングやジョギングなどペースが著しく遅いウォーミングアップまたは、動きづくり程度の練習は行ってもよい。それ以外は、補助競技場で行うこと。
 - ④ ウォーキングやジョギング等は、左回りとし、逆走はしない。
 - ⑤ スパイクを履いての走行やハードル、スターティングブロック、ピストル等の使用を禁止する。

2. 競技用シューズについて

- (1) スパイクシューズについては、スパイクのピンの長さは、9mm以下とする。ただし、走高跳は12mm以下とする。また、スパイクピンの本数は、原則として11本以内とする。
- (2) 競技用シューズについては、WA承認リストにあるシューズを使用していることを前提に、招集所での計測を実施しない。ただし、審判長の権限により、靴底の計測を求められた場合は計測する。

※県新人大会は公認大会のため、競技用シューズの計測を招集所にて実施する可能性がある。

3. 招集について

- (1) 招集所は、第2ゲート付近（1500mスタート地点）とする。
- (2) 招集開始時刻および招集完了時刻は、次のとおりとする。

	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	競技開始 30 分前	競技開始 20 分前
フィールド競技（棒高跳以外）	競技開始 40 分前	競技開始 30 分前
フィールド競技（棒高跳）	競技開始 60 分前	競技開始 50 分前

※ 棒高跳は、現地で招集を行う。

- (3) 招集完了時刻に遅れた競技者は、棄権となる場合があるので時間を厳守すること。
- (4) リレーオーダー用紙は、招集完了1時間前までに招集所へ提出すること。リレーオーダー用紙は招集所で配布する。
- (5) やむを得ず棄権する場合は、競技者係に申し出ること。

4. アスリートビブス（ゼッケン）について

- (1) ゼッケンは団体名が明瞭に見えるように、ユニフォームの胸と背につけること。ただし、跳躍競技の出場者は、胸または背のどちらか一方でもよい。
- (2) トラック競技に出場する競技者は、主催者が準備した腰ナンバー標識を招集所で受け取り、ランニングパンツの左右やや後方につけること。

5. 競技について

- (1) その競技をする選手以外は、トラックおよびフィールドに立ち入ることができない。
- (2) トラック競技の走路順、フィールド競技の試技順は、プログラム記載の左側の番号で表す。
- (3) レーンで行う競技種目で棄権者があった場合は、そのレーンをあける。
- (4) トラック競技のスタート合図は英語とする。（「On your marks」、「Set」）
- (5) 不正スタートをした競技者は1回目で失格とする。
- (6) 短距離種目では、事故防止のため、ゴール後も自分に割り当てられた走路（曲走路）を走る。
- (7) トラック競技は予選を行わず、すべてタイムレース決勝または決勝レースで行う。
- (8) トラック競技はすべて写真判定で行う。
- (9) リレー競技のマーカの使用は1カ所とする。使用するマーカは各チームで準備し、レース後は各チームで処理すること。
- (10) 競技場内での跳躍、投てきの練習は、審判員の指示によって行う。走幅跳、三段跳、砲丸投は、試技を3回のみ行う。（トップ8決定後の追加試技は行わない）
- (11) 三段跳は、踏切板から砂場までの距離を9mとする。
- (12) ハードル種目の規格

男子		女子	
高さ	ハードル間	高さ	ハードル間
0.914m	9.14m（水色）	0.762m	8.00m（黒色）

(13) 砲丸の重量

男子	女子
5.000 kg	2.721 kg

- (14) 選手は、携帯電話等の通信機器・ビデオ・デジタルカメラ等を競技エリア内に持ち込むことはできない。コチエリア付近（エリア指定あり）で選手に手渡して映像を見せることができる。選手が指定エリア外に機器等を持ち込むことはできない。なお、メインスタンドから撮影機器を手渡しすることは禁止とする。コチエリアでのコミュニケーションが終了したら、速やかにコチエリアから退出すること。

6. 競技場への入退場について

- (1) 種目別入退場口は下記の通りとする。各ゲートへは競技場外周を利用して移動すること。
第1ゲート：第1コーナー付近からスタートするトラック競技
第2ゲート：第2コーナー付近からスタートするトラック競技および棒高跳・投てき競技
第3ゲート：第3コーナー付近からスタートするトラック競技および走高跳
第4ゲート：第4コーナー付近からスタートするトラック競技および走幅跳・三段跳
※ 第1コーナー付近からスタートする種目および1500m以外のトラック種目の選手は、荷物を取りに戻る際、メインスタンド下通路を通り、第4ゲート後方の出入口より移動すること。
- (2) フィールド競技の競技者は、係員の指示に従って退場する。

7. 走高跳・棒高跳におけるバーの上げ方について

- (1) 走高跳・棒高跳におけるバーの上げ方は、最後の1人になるまでは次のとおりとする。

		練習	1	2	3	4	5	6	7	
走高跳	男	125	130	135	140	145	150	155	160	以後 3 cm ごと
	女	110	115	120	125	130	135	140	143	以後 3 cm ごと
棒高跳	男	190	200	210	220	230	240	250	260	以後 10 cm ごと
	女	150	160	170	180	190	200	210	220	以後 10 cm ごと

- (2) 第1位決定のために行うバーの上げ下げは、走高跳では2 cm、棒高跳では5 cm 単位とする。

8. 競技用具について

- (1) 競技に使用する用具は、主催者が用意したものを使わなければならない。個人所有の棒高跳用ポールの検査は、最終点呼時に跳躍審判員が行う。
- (2) 練習用としても、個人の用具を競技場に持ち込んで서는ならない。

9. 表彰について

- (1) 競技は個人選手権とし、団体対抗の表彰は行わない。各種目（個人・リレー：1～3位）の入賞者に賞状を授与する。
- (2) 表彰式は実施しないため、競技場1階【南エントランス入って右】に置いてある賞状を各自で取りに来ること。

10. その他

- (1) 応急処置を要する場合やその他健康上の問題が発生した場合は、正面スタンド下の救護室に連絡すること。
- (2) 記録は大型映像及びアナウンスにて発表する。
- (3) 各種目上位8名、リレー上位4チームに県新人大会出場資格を与える。8名を超える場合は決定戦を行う。
- (4) 競技結果についての質問は、各団体の監督（申込時に記載）のみが行うことができる。それ以外は認めない。
- (5) 競技者の個人情報保護の観点から、写真・ビデオ等の撮影については、以下の事項を禁止とする。また、本人に無断で写真や動画をSNS等に掲載をしない。
- ① 競技者の保護者および本人の同意のない撮影。
 - ② 撮影禁止区域での撮影（100mスタート付近、ゴール付近、ホームストレート延長線上。）
 - ③ 競技者がスターティングブロックの足合わせをしているときの撮影。
 - ④ 競技者が試技を待っている間や、身体を動かしているときの撮影。
 - ⑤ その他、大会本部から禁止の指示があった撮影。